

全国協議会 ニュース

2009年10月1日発行
第208号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者:中野勝博
http://www.marow.or.jp/
E-mail:office@marow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

名古屋で二十歳のお誕生日会

秋晴れの9月13日、日本初の骨髄バンク(当時は民間の東海骨髄バンク)を介した非血縁者間骨髄移植から20年が経ちました。この記念すべき日、歴史的な第一例目の患者さんである橋本さん、ドナーさんである田中さんが元気に顔を揃え、大谷会長、北折先生の進行のもと、「第一号ペア誕生の地 名古屋で20歳のお誕生日会」が行われました。

橋本さんと田中さんを交え、

20年前に骨髄バンク設立に向けて奮闘された関係者の方々に、当時の思い出を語っていただきま



初期に取材をしてくれた記者さん達も参加



同じ病棟仲間と久しぶりの対面

した。また、名古屋で元気になされた患者さん4名は全員移植月が9月という事で偶然の一致皆さんの笑顔には、嬉しい涙が溢れていました。

私も移植を受けて元気になった1人ですが、当時「他人のためにリスクを背負い骨髄を提供してくれる人がいるだろうか」と不安を抱え、それでも必至で骨髄バンク設立にご尽力された皆さんのお陰で、骨髄バンクがあり、今の私がいるのだとただただ頭が下がる思いでした。はじめの一步がなければ何も進ん

でいきません。不安を乗り越え、今に繋いで下さった橋本さん・田中さん、そして関係者の皆様

に感謝し、この先も「患者の立場にたった骨髄バンク」を繋げていけるよう努力していきたいと思

いました。今回協賛いただきました東海骨髄バンク様、養老ミート株式会社様、大変ありがとうございます。また、あいち骨髄バンクを支援する会、岐阜骨髄献血希望者を募る会の皆様、大変お疲れ様でした。(高橋)

理事長などによるトークイベントが催されました。なかでも、正岡理事長による、まだ白血病が不治の病であった時代から現代までの医療の流れのお話が大変興味深かったです。

実は、私は財団大会の翌13日に名古屋で開かれた移植20周年イベントにも参加したのですが、そこでは骨髄バンクの黎明期に携わった医師や患者、ドナー、マスコミの方々のお話を伺うことができました。

医学の発展に尽くした人、骨髄バンク設立のために声を上げた

160名の迫力ある演奏と、骨髄バンク甚句が参加者を魅了



9月12日、骨髄移植推進財団主催の骨髄バンク推進全国大会が、大阪府大東市にて開催されました。

第一部の式典では、来賓挨拶や関西地方で骨髄バンクを支援している団体への感謝状贈呈などが行われました。

第二部のイベントは、「おしゃべり音楽会 Hart to Hart」というタイトルの通り、たくさん

の音に溢れた賑やかなもので、大阪桐蔭高等学校吹奏楽部の皆さん、OMSGosベルアンサンブルの皆さん、大相撲元関取大

至さんによる演奏や歌、甚句を楽しみました。特に骨髄バンクについて謡った大至さんの甚句にはみなさん、聞き惚れていました。

また音楽会の後には、ドナー経験者、移植経験者や財団の正岡

た、その声を記事にして社会に伝えたい人、記事を見てドナーになった人。複数の大小の揺らぎが重なり、連鎖し、しだいに大きなうねりに成長して、今日の骨髄バンクがあります。そしてその揺らぎが、大東市の会場で、演奏者のリードと歌い手の声帯を揺らし、僕を喜ばせてくれたのだと考えると、僕は12日の演奏の追想と共に二重の感動を覚えました。(野平)

新体制を担う理事より皆様へ②

◆加藤 弦 (新任)

北海道プロロックの加藤弦です。97年1月の骨髄液提供から

少しづつ北海道骨髄バンク推進協会との接触を深め、99年に実質的な北海道協会事務局員ということになり、以来、札幌支部と北海道プロロックの活動について、きわめてローカルな感覚で裏方をやっています。その当

今年度より再び、理事としてお世話になります。福島の齋藤です。時の流れと共に骨髄バンクも様々に変化、この変化が患者さんにとってマイナスになってはならないと思っています。各機関、各団体の目標は「患者救命」、同じ思いを繋ぎ、協力し合い、本当に必要とする支援方法、情報を一人でも多くの患者さんに届けられる様に、大切な命を守る様に活動していき

◆品川 保弘 (再任)

NP法人化前の運営委員時代を含め、干支が一回りするほどの長期にわたり、役員を務めさせていだいておられます。協議会設立10周年当時、「20周年は無ければいい。骨髄バンクもボランティアも必要のない時代になっていければいい」と願っていたのですが、夢はかなわず、間もなくその20周年を迎えます。かくなるうちは、骨髄バンクの円満終焉をこの目で見届けるまで頑張りたいところですが、気力体力がそこまでもつとは到底思えません。とりあえず、あと2年、お役に立てそうな分野で精一杯努力してみたいと思

◆川瀬 和子 (再任)

理事3期目になりました川瀬です。「骨髄バンク」に関わるようになったのは、ドナー登録でした。自分にも何かお役に立てることがあるのではと考え、まず登録して、その後ボラン

沖縄県民は九州本土などの遠隔地に赴かねばならず、交通費や宿泊費等多くの経済的な負担に加え、知人もいない地での治療は患者・家族にとって精神的な負担が重くのしかかるものと思われ

採取事故にともない一時的に認定を取り消されていた琉球大学附属病院では、2006年の再開後、順調に移植や採取が実施されていたと聞いていたのですが、今年3月に小児科の移植チームリーダーが辞職し、6月には内科の移植チーム3名全てが退職したため、現在、沖縄県内における造血細胞移植医療に大きな支障をきたしている、と

退職理由の詳細は不明ですが、忙し過ぎて疲弊したという理由だけでなく、病院の体制にも問題があるのかもしれない。県内で治療が出来なければ、

沖縄県民は九州本土などの遠隔地に赴かねばならず、交通費や宿泊費等多くの経済的な負担に加え、知人もいない地での治療は患者・家族にとって精神的な負担が重くのしかかるものと思われ

協会では、1日も早い事態の改善を願って署名活動を開始しました。ドナーからの骨髄採取、患者への移植ともに、本人はもとよりそのご家族も安心できる環境で、より負担の少ないシステムで実施できるように、沖縄県民だけでなく、全国各地の皆様のご協力をお願いしたいと思います。

なお、署名用紙は支援する会のホームページからダウンロードできます。

http://www.marow.or.jp/okinawa/nitei-youbousho.pdf

心からのご寄付に感謝申し上げます

8月24日~9月15日	
山田康博	現金 9,880円
S君に骨髄をおくる会	現金 50,000円
藤タクトコーポレーション	現金 10,000円
柴山 隆	現金 10,000円
塩谷 泰人	現金 1,000円
飯島 孝枝	現金 2,240円
●白血病患者支援基金	
街千曲堂印舗	現金 3,491円
メディコ21 古川店	現金 6,528円
ファミリーマートFC池ノ上駅北口店	現金 2,010円
肉のプロショップNAKAGAWA	
現金	3,902円
現金	4,036円
グルメシティ万代店	現金 905円
倉敷中央病院血液治療センター	現金 8,834円
香西食糧柏台店	現金 558円
サービスステーション・ハウ	現金 307円
相原部品藤玉島店	現金 350円
匿名	現金
●佐藤さち子患者支援基金	
北海道骨髄バンク推進協会帯広支部	(OCTV 67,475円)
北海道骨髄バンク推進協会帯広支部	現金 20,000円
チャリティゴルフ大会)	現金
梅原 保	現金 (敬称略)

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

来年度造血幹細胞移植関係予算 概算要求の概要

造血幹細胞移植に関する来年度予算の概算要求の概要が明らかになりました(資料入手日9月11日)。総額は18億6千9百万円で、今年度予算比較で1億6百万円の増額となっています。

今年度、広告業界関係者などを集めた「広報推進委員会」が設置され、公共広告機構による骨髄バンクCMの中断を補うに足る、新たな広告手段の構築に向けた検討が行われており、今回の概算要求はそのための財政措置と見られます。

骨髄移植推進財団への補助金では、新たに「非血縁者間末梢血幹細胞移植の導入に係るシステム構築費」が計上されています。非血縁者間末梢血幹細胞移植については、現在導入に向けて財団内の「PBSC Tに関する委員会」で検討が行われています。財団は来年度中の導入を目指すとしていますが、システム構築費が来年度予算の概算要求に計上されたことで、厚生労働省も早期のPBSC T導入を前提としていることが窺えます。

一方日本赤十字社に対する「骨髄データバンク登録費」の予算は、今年8月からドナー登録時のHLA検査にこれまでのA・B・DR座に加えてC座の検査が実施されていることから、約3千2百万円の増額要求となっています。

このほか「骨髄提供登録者フォローアップ事業」に関する予算がほぼ倍増となり、「骨髄バンクドナー募集広告経費」も倍増となっています。骨髄バンクの普及啓発広告については、

また、「さい帯血移植対策としては、「さい帯血保存管理業務費」および「さい帯血の採取及び検査に係る経費」がそれぞれ約3千万円の増額要求となっています。

【追記】本稿準備中の9月16日、概算要求の各項目および金額については、別掲の資料をご参照ください。

■平成22年度移植関係予算概算要求の概要 (臓器移植対策室)

	概算要求額	前年度予算額
造血幹細胞移植対策	1,869百万円	1,763百万円
I. 骨髄移植対策	1,214百万円	1,137百万円
<概要>		
(1)骨髄移植対策事業費 (骨髄移植推進財団)	487,924千円	440,719千円
・あつせん業務関係事業費	341,814千円	345,288千円
・あつせん事業体制整備費	54,022千円	8,617千円
【新】非血縁者間末梢血幹細胞移植の導入に係るシステム構築費	42,000千円	0千円
【改】骨髄提供登録者フォローアップ事業	9,126千円	4,788千円
・普及啓発事業	88,184千円	82,910千円
【改】骨髄バンクドナー募集広告経費	10,500千円	5,250千円
・運営管理費等経費	3,904千円	3,904千円
(2)骨髄データバンク登録費 (日本赤十字社)	726,523千円	696,576千円
【改】HLA (A座、B座、C座、DR座) 検査費	495,075千円	462,788千円
(3)医療提供体制施設整備交付金 (医政局指導課計上) (特殊病室施設)		
II. さい帯血移植対策	655百万円	625百万円
<概要>		
(1)さい帯血移植対策事業費 (日本赤十字社)	655,140千円	625,221千円
・さい帯血保存管理業務費	617,226千円	586,848千円
【改】さい帯血の採取及び検査に係る経費	599,561千円	568,865千円
・さい帯血情報管理経費	34,941千円	35,335千円
・日本さい帯血バンクネットワーク運営会議費	2,973千円	3,038千円
(2)保健衛生施設等設備整備費 (健康局総務課計上) (さい帯血バンク設備)		

鳩山民主党政権が発足しましたが、8月末時点で、菅民主党代表代行(当時)が「今の概算要求を白紙に戻して、改めて作り直したい」という趣旨の発言をされました。予算策定にあたって、これまでの官僚主導を打破するという姿勢を前面に押し出した発言でしょう。聖域は設け

ないと思われまので、造血幹細胞移植関係予算についてもいつたん白紙に戻されることでしょうか。しかし、いわゆる意味も目的も曖昧な公共事業やハコもの作りとは根本的に異なり、国民の「いのちと健康」に直結する事業であることから、手厚い予算立てを期待したいと思えます。

さい帯血バンクネットワーク設立10周年 秋篠宮殿下ご夫妻も記念大会にご臨席

8月29・30日、早稲田大学国際会議場・井深大記念ホールにおいて、日本さい帯血バンク



初日最初のプログラムは「もつとクロスしよう」とる人、つくる人、つかう人」をテーマとしたパネルディスカッションでした。「とる人」(採取施設)からは、アンケート回収を増やすために、乳幼児検診を病院負担で行っていることが、「つくる人」(さい帯血バンク)からは、採取施設の要望に添えて休日の調製保存を始めたことが、そして「つかう人」(移植施設)からは医療コーディネーターの存在が医師の事務作業量を軽減し、それにより患者と向き合う時間も増し、患者が安心して治療を受けられる環境が確保されること

が報告されました。関係者の熱心な取り組みにより、さい帯血バンクが大きく育っていることを実感したひとときでした。夕方からの記念式典には、悠仁様ご出生時にさい帯血を提供された秋篠宮殿下ご夫妻がご臨席され、殿下よりご祝辞をいただきました。



解凍名人によるさい帯血解凍デモンストレーション

「もつとクロスしよう」とる人、つくる人、つかう人」をテーマとしたパネルディスカッションでした。「とる人」(採取施設)からは、アンケート回収を増やすために、乳幼児検診を病院負担で行っていることが、「つくる人」(さい帯血バンク)からは、採取施設の要望に添えて休日の調製保存を始めたことが、そして「つかう人」(移植施設)からは医療コーディネーターの存在が医師の事務作業量を軽減し、それにより患者と向き合う時間も増し、患者が安心して治療を受けられる環境が確保されること

2009年度賛助会員 (8月24日~9月15日)	
アステラス製薬株式会社	50,000円
尾西ライオンズクラブ	10,000円
徳島藍ライオンズクラブ	20,000円
森山 久	2,000円

同時通訳と格闘しながらも、ヨーロッパの成績や複数さい帯血移植の有効性など勉強になりました。日本からは、東大医科研の高橋先生より非血縁者間移植

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

(財団マンスリーレポート (9月15日発行) より抜粋)

- コーディネートの状況と対策について
9月10日開催の常任理事会で、現状と対策について審議されました。本年1~6月における国内患者登録数は995例で前年同期比111%、特に50歳以上が416例で同123%と大きく増加、移植例数は568例、採取件数は566例と共に前年同期比106%でした。4月~6月のコーディネート期間については、確認検査行程は25.0日(前年同期24.0日)ドナー選定から骨髄採取までは74.0日(同71.0日)、コーディネート開始から骨髄採取日までの行程が127.0日(同119.0日)で、いずれも前年に比べて延長しています。特に関東地区のコーディネート期間は前年に比べ11日延長し、主な原因として骨髄採取の受け入れが困難なためと考えられます。以下、対策案(抜粋)です。
○造血幹細胞移植学会と協力して、ドナー安全管理料として診療報酬の増額を働きかける(要望済み)。
○1施設あたりの骨髄採取受け入れ数が違うことについて、その原因を探る。より骨髄採取を受け入れてもらえるような調整のあり方について、財団各部および地区事務局間で、各地区の工夫などの意見交換を行う。また、骨髄採取の調整に関してどのような協力体制が取れるか、財団職員と院内コーディネーターとの意見交換を行う。
○院内コーディネーターが、非血縁ドナーの骨髄採取受け入れ時に院内調整等に協力できるよう、財団から採取施設に対して要請する。

- 第2回目、第3回目「PBSC Tに関する委員会」の開催
8月15日および9月13日に第2回目、第3回目の委員会が開催されました。第2回委員会では、「顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)投与について」

◆日本骨髄バンクの現状(平成20年8月末現在)			
	7月	8月	現在数
ドナー登録者数	2,731	2,941	343,923
患者登録者数	213	203	2,649
骨髄移植例数	122	91	—
20歳未満ドナー登録者	—	123	10,425*
51歳以上ドナー	223**	89**	15,742**

骨髄バンクNOW

と「末梢血幹細胞(PBSC)採取について」が審議され、ドナーの安全性を重視するとともに、導入時はドナーや施設の事情等を考慮して、慎重に開始することが確認されました。第3回委員会では、造血幹細胞移植学会・小寺理事長より、「国内血縁および海外におけるPBSCドナーの有害事象について」および「G-CSFの安全性」等についての報告、また、厚生労働科学研究班の宮村耕一代表より、8月30日に開催された班会議の報告があり、次いで「PBSCの凍結について」が審議されました。移植施設の判断によりPBSCの凍結保存を認めることの可否や、その方法および移植の安全性等について、さらに慎重に審議を継続します。

- 政府広報番組で骨髄バンクが取り上げられます
10月は「骨髄バンク推進月間」ですが、これに合わせて政府広報番組で骨髄バンクが取り上げられます。詳しくはそれぞれのホームページをご覧ください。地域によっては放送(曜)日が異なる場合がありますので、ご確認ください。
<テレビ> ■ご存じですか(10月9日放送)
■中西哲生のJust Japan(10月10日放送他)
<ラジオ> ■栗村智のHAPPY!ニッポン(10月24日放送)

- 計報
8月30日、財団の常任理事である町田圭治氏(株式会社ケーティーピー常務取締役)が心筋梗塞のため逝去されました(享年70才)。ご冥福をお祈りいたします。

■8月の区分別ドナー登録者数: 献血ルーム/978人、
献血併行型集団登録会/1,883人、集団登録会/2人、その他/78人

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
*1) 17年3月~ *2) 51歳以上ドナーの延長数 *3) 51歳以上ドナーの新規登録数
*4) 17年9月~

全国協議会財政への ご援助をお願いします

私も全国協議会の運営資金は、皆様からの善意のご寄付によって賄われております。しかしながら長引く不況の影響もあって、このところ資金不足に悩ま

身の方にあつた活動をすべきとのご意見もいただいておりますが、移植件数の増加を上回る患者数の増加という現実がそこにある以上、患者支援の面でも、また普及啓発の面でも、事業の拡大は必然であると考えます。真に必要な事業を見極め、資金・資源の有効活用を図ることは言うまでもありませんが、患者さんを取り巻く環境が未だ改善されない現状においては、なお一層、事業を推進しなければならず、これを支える財政基盤を確保しなければなりません。皆様のお力添えをお願いします。

植ではさい帯血が骨髄に勝るとも劣らない同等の成績を示していることが、そして大会実行委員長である虎の門病院谷口先生からは300例を超えたミニ移植の成績が発表されました。すでに世界をリードしていると言えるわが国のさい帯血移植の現状は、会場におられた患者さん方の目に、とても頼もしく映ったことでしょう。

骨太な企画が満載の大会であり、来年20周年を迎える全国協議会の記念大会の企画を考えると、うえでも、とても参考になった大会でした。(黒川)